

わがまちみらいマネジメント講座

「地域活動×オンライン はじめの一步」 実施報告書

- 1 日 時 令和3年7月11日（日）14時00分～16時00分
- 2 実施方法 ハイブリット開催（会場及びオンライン）
- 3 開催目的 地域活動の担い手等を対象に、地域活動における運営能力の向上や地域活性化に効果的な手法の取得を目指す。
- 4 テーマ テレビ会議を始めとしたオンラインツールを使った会議や活動について、事例を交えながら、初心者でも分かりやすく、地域活動で実践できるような手法やヒントを学ぶ講座を開催します
- 5 参加者 会場12名 オンライン37名 計49名
- 6 講師 秋山 翔太郎 さん
（特定非営利活動法人佐賀県CSO推進機構 理事）

1986年、福岡市生まれ。大学在学中のバイク事故による入院の末、人との巡り合わせに合縁奇縁を感じる。入院中、佐賀環境フォーラムを受講し、放置自転車の再活用や利用促進を目指す学生発の環境活動団体を創設した。年間130件ほどの相談を受け、研修や講座の企画運営、オンライン活用支援を行っている。



7 実施内容

○オンラインツールを知ろう（概要紹介）

秋山先生から、コロナ禍で地域活動を続けるため、どのようなオンラインツールがあるのか、地域活動におけるオンラインツールの効果的な活用事例などを学びました。

1. オンライン活用の事例



①情報発信

- ・ ホームページ・(ブログ)

例) 佐賀市「つながるさがし」地域住民みんなで作る電子掲示板

- ・ SNS 毎の特徴や使われ方 (LINE、Facebook、Instagram 等)

例) 赤松まちづくり協議会・蓮池まちづくり協議会 Facebook

②内部会議

- ・ オンライン会議ツール「Zoom」の紹介（後半の講義で使い方を説明）

③対外活動

- ・ Zoom を利用したセミナーや講演（参加者と講師が別会場でつながる例）

例) 佐賀市地域づくり交流会、シトラスリボンプロジェクト、

オンライン折り紙教室、よりみちステーション等、〇〇な障がい者の会 等

2. オンライン会議のお役立ちツール

- ・ Google ドキュメント、Google フォーム、Google jamboard、調整さん 等

○質疑応答

前半の講義の内容について、会場、オンラインそれぞれの参加者から質問が出され、先生に回答していただきました。

Q. 地域コミュニティ連絡協議会等でオンライン会議をする際、スマホなどを持っていない方がいる場合、どのような器具等がどれだけ必要ですか？

A. 会場につき、スマホやタブレットが最低1つあればよいです。用意する器具は、なるべく少なく設備は簡素にしたほうが良いでしょう。例えば、公民館等にある音響機器を利用することもできます。詳しくは後半の講義で説明します。

Q. Facebook 上で PDF や Word を載せる方法がありますか？

A. チャット機能のグループやメッセージで共有はできますが、投稿することができません。投稿するなら、画像に変換する必要があります。

○オンラインツールを使おう（活用編）

実際にオンラインツールを使うために必要な準備や、オンライン会議をする方法、オンラインと会場を融合させた「ハイブリッド開催」の手法について学びました。

1. オンライン会議を始めるために必要な準備

- ①パソコン・スマホ・タブレット
- ②ヘッドセット・イヤホンマイク
- ③Web カメラ
- ④安定しているインターネット回線
- ⑤リラックスできる環境

2. Zoom の使い方

Zoom の使い方を、会議を主催する側（ホスト）と会議に参加する側（ゲスト）のそれぞれの場合に分けて学びました。

①オンライン会議を主催する場合（ホスト）

- ・アカウントの取得が必要
- ・ミーティングを設定し、ミーティング情報を参加申込者（ゲスト）に送る。
- ・「共同ホスト」の機能で役割分担をすることも可能。

②オンライン会議に参加する場合（ゲスト）

- ・アカウントへのサインインは基本的に不要
(アプリさえダウンロードすればよい)
- ・ミーティング情報を主催者（ホスト）から受け取る。

③マイクやカメラの設定確認

- ・マイクやカメラの設定方法を確認し、バーチャル背景などの機能も紹介。

3. ハイブリッド開催について

状況に応じて、リアルとオンラインを選択できるので、参加者の参加のハードルを下げるができる開催方法として、「ハイブリッド開催」が紹介されました。



①開催方法の比較（メリット・デメリット）

- 1 リアル開催：カードゲームや模造紙、付箋等を活用でき、学ぶ、知るだけでない交流や感動がある一方、参加者に足を運んでもらう必要があるため、感染症、風雪水害等のリスクで開催が困難になる。
- 2 ハイブリッド開催：参加者が参加方法を選択、変更できる一方、オンラインのみでの開催に比べて必要となる会場設備、負担が増し、会場での盛り上がりオンライン参加者が置いてきぼりになりがちとなるため、会場とオンラインどちらにも配慮して運営する必要がある。
- 3 オンライン開催：端末とネット環境さえあればどこからでも参加でき、オンラインツールを活用できる一方で、参加者に端末とネット環境、一定以上のITスキルが求められ、参加者の様子が分かりにくい。

②ハイブリッド開催の様々な開催方式

- ・セミナー（講師がオンライン or リアル会場）
- ・交流会（会場間サテライト、円卓会議・座談会）

③運営時の役割分担

リアル開催での役割（会場受付・司会進行・マイク運び・記録係）に加えて、オンライン用の役割（ルームの入退室管理、チャット対応、スポットライト設定、会場撮影用カメラ）が必要となる。

④ハイブリッド開催でありがちなハウリングを回避するために

- ・会場のマイクとスピーカーを1台に集約する
- ・周囲のPCやスマホはマイクとスピーカーをオフにする
（同一会場に複数のスマホ、PCがある場合は特に注意）

会議中に最もストレスがかかるのは、映像が見えにくいことよりも、音声が聞こえないこと。

4. 導入支援の例を紹介

秋山先生が実際にオンラインの導入支援をされた事例を紹介いただきながら、必要な機材等を確認しました。

- ・鳥栖市 とす市民活動ネットワーク（講師の先生がオンラインの場合）
- ・佐賀市 シトラスリボンプロジェクト（公民館のカラオケ機材を用いた事例）

5. オンラインやZoomについて身近な相談先

長崎市市民活動センター「ランタナ」について紹介されました。

年中無休で相談可能。団体登録をしていれば、（自治会や地域コミュニティ連絡協議会など）Zoomのアカウントを無料で貸し出ししてもらえる。

○質疑応答

講座の最後に、会場とオンラインのそれぞれから質問が出され、先生に回答していただきました。

Q. 回覧板を電子化することによって、回覧スピードは速くなりましたか？

A. 「つながるさがし」については、完全に電子化したわけではない。回覧する情報をホームページ上で閲覧できるようにしたもので、情報発信を補完するものだが、自治会に加入していない人やマンション住まいの人など回覧板が回らない人にも情報を知ってもらえるなどの利点がある。

Q. 高齢者が拒否反応を起こさずに、このシステムに慣れて貰う方法は？

A. 今日会場で参加いただいて、少し体験してもらったように、体験する機会を設けるとよい。最初は抵抗があっても実際にコミュニケーションが取れてはかどると分かると抵抗がなくなり、どんどん利用してくれるようになる。

Q. 公民館等で Skype や Zoom を利用した会議を主催する場合、回線やスペックの問題をどう解消すればよいか？

A. その日だけのポケット Wi-Fi を借りたり（数百円～数千円）、スマートフォンやタブレットを利用したりすることもできる。施設のインフラの問題については、地域住民のニーズによって優先順位が上がることも考えられるので、いずれ改善していくと考えられる。

8 アンケート結果

別紙「アンケート結果」参照

(会場の様子)



(オンライン参加の様子)

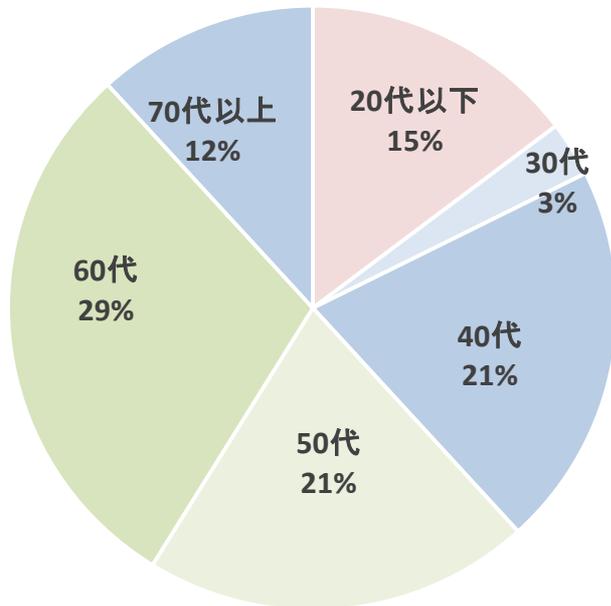


わがまちみらいマネジメント講座

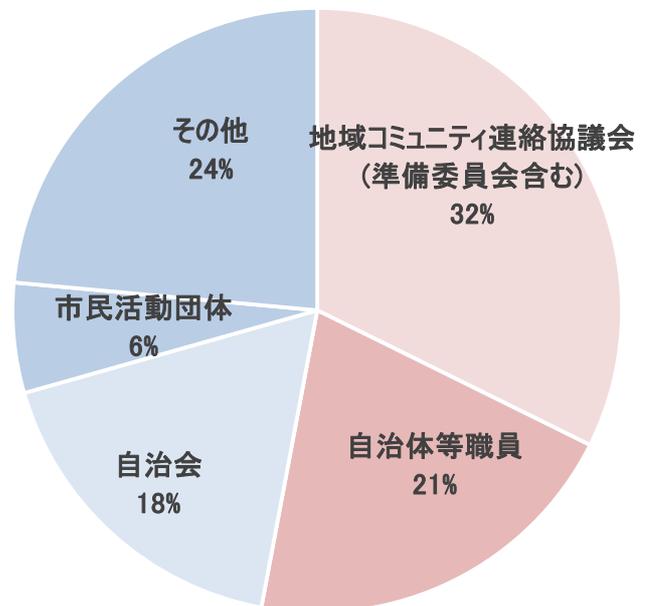
令和3年7月11日開催「地域活動×オンラインはじめの一歩」アンケート結果

回答者34人（参加者49人）

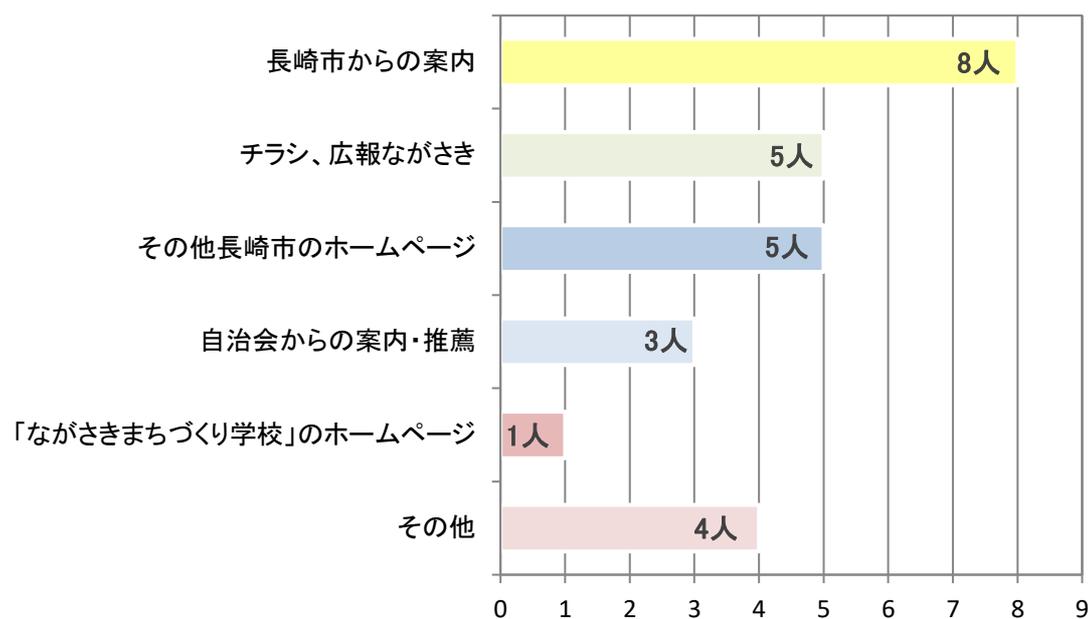
参加者 年代比率



参加者 団体比率



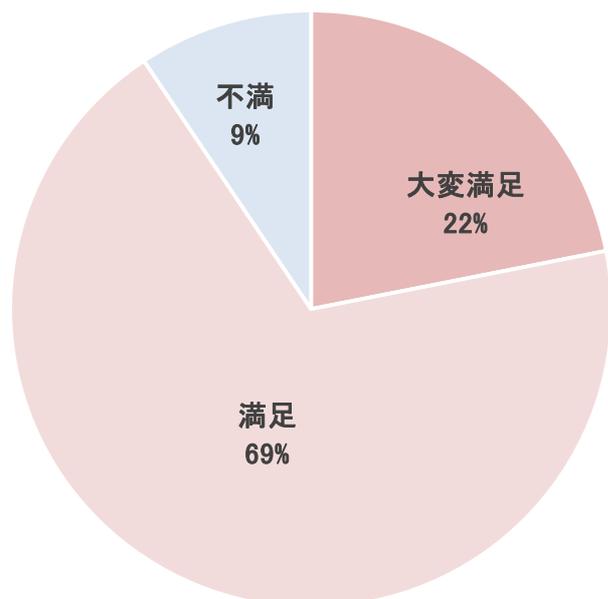
1 本日はどのようなきっかけでご来場されましたか？（複数可）



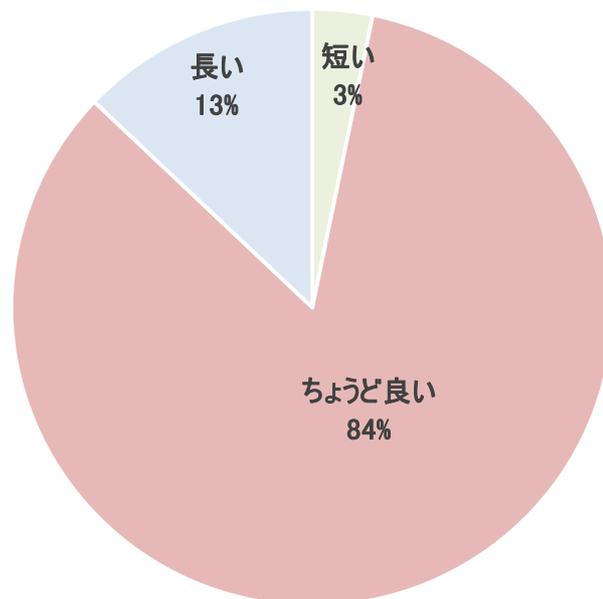
【単位：人】

2 本日の講座の評価について、当てはまるものを選んでください。

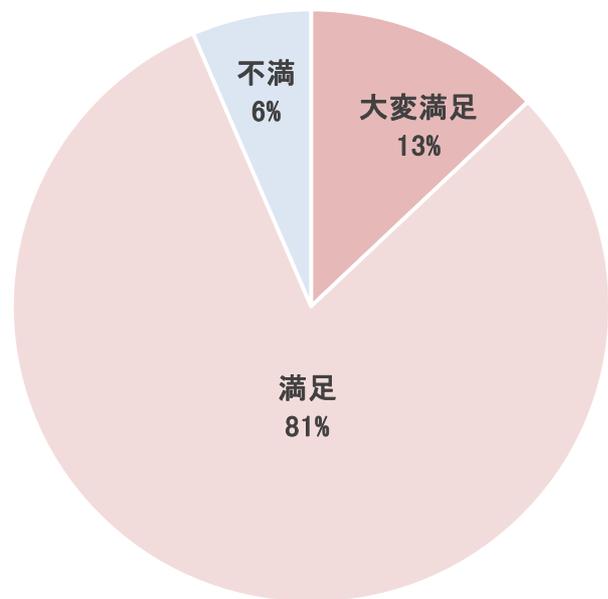
(1) 講座内容について



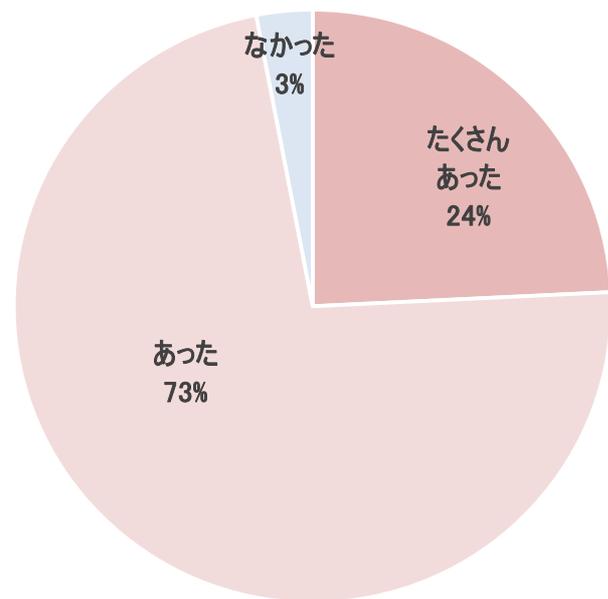
(2) 時間配分について



(3) 全体的に（事務局の対応等も含めて）



3 新たな発見や活動の参考になることはありましたか？



4 新たな発見や活動の参考になったこと（自由記述）

ハード面、ソフト面について非常に参考になりました。
ZOOM機能の使い方
ネット開催
ZOOMのホスト開催についてなんとなく理解できた
ZOOMの活用の新たな発見やホストになる際のやり方など
背景設定やリアクションなどの機能を知ることができました。
ZOOMの使い方が少しわかった
機材の準備にそれほど費用がかからないこと、機材の接続方法、会議のスタイルに応じたシステム構成など具体的な運営方法を知ることができた。
コロナ禍のような事態で、会議をどう開いていくかを考えさせられた。ただ、やはり、人と人のつながりはフェイス・トゥ・フェイスが原則だと考えるから、顔の見える会議は有意義である。
facebookの広報活動への利用
佐賀市の取り組みとしてHPやfacebookを活用した地域行事の周知方法
ズームを初めて使えた。実務的な内容で今後も困ったら資料で確認できそう。
Webexを使った会議は主催、参加したことがあったがZoomを使った会議は参加したことがなかったため操作方法や必要物品等を学ぶことができた。
Zoomの詳細の機能（ホストでできること）、オンラインやハイブリッドの開催方法の詳細や準備機材について
佐賀県の情報発信の取り組みについては非常に参考になった。
Zoomの機能やオンライン・ハイブリッド等の様々な開催方式について説明があり、今後セミナーや講演会を行う際の参考になると感じた。
Zoom開催のやり方について参考になった。
具体的な事例をあげて説明いただきとても役に立った
自治会で毎月発行しているお知らせを文面ではなく画として配信できないか？と考えました
エイブル オン ズーム 調整さん、つながるさがし、オンラインCSO支援センター ランタナ
オンラインの活用を始めるきっかけになりそう
なかなかお話についていけないところ多々ありましたが、Zoomが地域コミュニティのつながりに、一役買う時代になったと、いう事。長崎市民活動センター・ランタナのこと。
効率のいい地域活動を行うヒントをいただきました。
サインアップ・講演
オンライン、ズームなどについての更なる講座の取り組み大事ですネ。
「つながるさがし」を長崎でも活用出来ればと思いました。
SNSでの情報発信やオンライン会議のメリットがよく分かる内容だった。
WebやSNSは、高齢者は敬遠しそうですが、今から少しずつ浸透させていけば10年後にその結果が出てくるだろうし、次のリーダー候補者達への周知方法として必要なものなどで、いい取り組みだと思った。

5 今後学んでみたいこと（自由記述）

広報の方法
誰もがみたいと思う情報発信の仕方
好取組事例等
各種団体との連携を推進するための方法を勉強したい
自治会内の広報について
高齢者のオンライン普及環境作り
人の意見をどう集約して行くか、成功体験ばかりでなく、失敗した内容などを学べれば有り難い。
広報活動への応用
訴求力が高いチラシづくりやメンテナンスが容易なホームページの作成に関するノウハウを学びたい。
効果的な周知方法
各地域にあるそれぞれの団体を協議会に集約する良い方法。または実践している地域の良い例など知りたい。
協議会同士で事業展開をする場合のやり方
今回得た知識をもとに住民とのコミュニケーションを計りたい。
企業が地域の環境や社会に対してどのような活動を行うことがインパクトがあるのか貢献できるのかを知りたかった。
ホームページ等で地域情報発信ができるようになりたい。
ALT,実習生、労働者など長崎市在住の方々の地域コミュニティとのつながりなど。
ZOOMの活用方法
高齢者がどのようにしてオンラインを利用できるか！
他県他力の活動について。
地域活動のまちづくりで先覚者の確認で学んでみたいことは、イベントページをしてみたいです。
西浦上周辺の美化活動を長崎に帰郷してから続けています。ひまわりの種、明日葉の苗など欲しい人に配布しています。最近のSNSの活用方法、注意点を学んでみたいと思っています。

6 その他、ご意見・ご要望、感想など（自由記述）

オンラインで自宅にいながら研修に参加でき、今後もいろんな研修に参加したい。

実際にZOOMを使用する上で何かしら気をつけるべきことがあれば知りたいと思い参加させていただきました。実際に主催者側としての活用場面は予定ないのですが、周辺機器やネット環境（有線が最適）を整えることがよりスムーズに進められることが分かりました。

本日の講義や資料は今後のZOOMを行う中での教科書になります。本日はありがとうございました。

自治会の集会所をハイブリッド会場にすれば、自治会役員から参加者を増やすことができると思います。また、その際に今日紹介していたZOOMのアカウントの貸し出しについても案内すれば、自治会での利用も増えると思います。

高齢者がオンラインに参加出来る企画をお願いします。

人と人のつながりが低下していく様な世情の中、共稼ぎでないと生活できない人が増え、建物構造も人が訪ねてきても、会話ができにくくなっている。地域の活性化を図るため、働きかけてもなかなか賛同して頂けない。それをどう集約して行くかなど迷いは尽きない。但し前向きに捉えていかないと前に進まない。早く形を作り、若い人たちにバトンタッチできればと考えています。高齢者が口を挟みすぎると、前に進めない。そのバトンを受ける人たちをどうスカウトできるかが課題と思う。

内容が難しすぎる。

今回の講座で最初に地域の方々（特に高齢者の方々）にオンラインを提案した時の反応や最初に理解してもらう方法などをもっと具体的に聞きたかった。
活用する前にまず地域に落とした場合の課題

自宅で私物スマホで参加しましたが、画面に自分の画像を出す手法がわからず失礼しました。これをきっかけにもう少しオンラインについて学ぼうと思います。

Webexの活用方法についても知りたかった。（業務で使用することが多いので）Zoomが思ったよりも簡単に使えることが分かったので、今後活用していきたい。

ハイブリッドの講座は今回初めて受講したため、今後自分たちで企画するときの参考にしたいと思いました。また、講義の中でオンライン開催のための必要物品等の資料があったが写真のみであったため、今回の講座で使用している実際のもの（パソコンを何台使用しているかカメラや音声機器など）の紹介をしていただけたらありがたかったなと思いました。講座を開催していただきありがとうございました。

ハイブリッド開催の具体的な手法等について、もう少し詳しい説明を聞きたかった。次回、ハイブリッド開催の具体的な手法についての講座があれば、ぜひ参加させていただきたいです。

オンラインやハイブリッドでの開催に向けて具体的な開催方法や必要物品等の説明があり分かりやすかった。今後の活動の参考にしたい。

内容がもう少し順序良くご説明頂けた方が理解しやすかったと思います。フェイスブック・ズームの活用方法にしばって欲しい。活動内容（佐賀県の）を途中聞かされると混乱してしまいました。

今後Zoom開催をする場合に高齢者への対応をどうするか。スマホを持っていない方もいる中、いくつかの会場に分けて開催するのか。

来るべき時代に備えてのツールだと思う。即導入は地域としてもなかなか難しいと思うが、展開するべき時の為にも知識習得は必要と感じた。

勤務先でSDGSに取り組もうとしています。自治会等に会費や協賛金を納める以外でどういう行動をすることが良いか検討しています。「つながるさがし」のような感じで地域の課題点を共有してもらえると行動に繋がりがやすくなり、助かります。

長崎市の出前講座にオンラインによる情報発信が学べるような講座があると助かる。

ありがとうございました。子育て、会社員生活中は、目の前のことで、毎日精一杯でしたが、時間に余裕ができ、こういう講座もある事、改めて知っただいです。

やはり、リアル会議の主流になるかな。

定期的に行って欲しいです。

ハイブリッド開催を考えて、ルームを貸すこともある意見も感想として思っています。

長崎市は100年に一度の変革期なので、故郷に帰省した一人として、ボランティア活動いろんな市民講座に参加したいと考えています。

SNSでの情報発信は今後もっと重要視されてくるかと思うが、まだ敬遠している方も多いので秋山氏がされているFacebook講座等をまちづくり学校で企画したら参加したいと思う方も多いのではないかな。